

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group

こんにちは。大阪にも秋の気配が感じられるようになりましたが、皆さんのところはいかがですか。秋といえば、食欲の秋、文化の秋、それともゴルフの秋でしょうか？

今月から「J-DAVID News」を発行いたします。J-DAVID

Newsでは、ビタミンDに関連した情報を発信するとともに、現在の臨床試験の進捗状況、事務局からのご連絡、その他ピックスなど、様々な情報を発信して参りますので、お楽しみに。

世話人からのメッセージ

「J-DAVID研究の成果に期待する」

大平 整爾 先生（札幌北クリニック）

心を持つ病人を治療する臨床医学は、その医療行為の過程に様々な要因が紛れ込んでくるために100%科学的・論理的・理性的であり得ない。日常臨床の現場に立ってみると患者・家族対医療者の感情交流が幅を利かせており、著しく感情的な要素を交えた人間関係のうえに立脚している。これを是認しつつ、臨床医学に纏わりつく曖昧さを少しでも払拭する努力は必要不可欠であろう。カナダのGuyatt教授の提唱したEvidence-based Medicine(EBM)はその一翼を担っており、EBMのEはevidenceだけではなく、experience・economy・ethics・ecology・emotionをも意味することを認めながらも、現代医療は「明確な“Evidence”を基にして進もうとしているのだと認識する必要がある。活性型



ビタミンD剤の登場は腎疾患治療領域において画期的な出来事であったが、本剤の薬効の一つである副甲状腺からのPTH産生や分泌を抑制する作用にのみ関心が集中するくらいであった。ビタミンDの受容体

が主要な臓器・組織に存在する事実に注目すれば、本剤には血清PTH低下効果を期待するに止まらず、より大きな視野に立った検討が望まれてきた。この点に関しては西澤良記教授ご一門が既に幾つかの興味深い成績を公刊しておられ関心を抱いてきたが、この度、実務担当者の庄司哲雄先生を中心に大規模なprospective studyが長丁場で企画されたことには、期待するところ大である。長期にわたる臨床データを集積する地道な作業であるが、全国の透析医諸賢の参画を得て、世界に発信できる第一級のエビデンスが獲得できることに胸を膨らませている。

最近の文献から

CKDにおける臨床的アウトカムと活性型 vs 栄養学的ビタミンD

Clinical Outcomes with Active versus Nutritional Vitamin D Compounds in Chronic Kidney Disease
Kalantar-Zadeh K and Kovesdy CP. Clin J Am Soc Nephrol 4: 1529-1539, 2009

【ポイント】

CKDにおけるビタミンDとsurvival benefitの関連について、活性型ビタミンDとビタミンD栄養指標としての25(OH)Dを対比した総説。ビタミンD製剤の特徴を比較し、疫学研究を展望しつつ、生命予後改善を目的とした場合にどのような薬剤を選択すべきかを考察。

最新進捗状況

現在、全国での症例登録数は297例となりました。
累計登録数のランキング・進捗状況等を報告致します。(9月20日現在)

各地区登録進捗

地区	施設数	累計登録数	今月登録数
北海道	8	32	8
山形	3	0	0
宮城	5	1	0
東京	4	0	0
栃木	1	0	0
茨城・千葉	16	0	0
神奈川	2	12	0
愛知	17	2	0
大阪	33	138	0
奈良・和歌山	2	23	0
京都	2	47	0
広島	4	14	0
島根	7	0	0
徳島	2	0	0
高知	3	2	0
愛媛	1	18	0
福岡	5	5	0
沖縄	6	3	0
合計	121	297	8

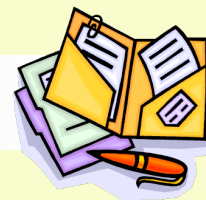
累計登録数ランキングTOP10

順位	施設名	登録件数
①	井上病院／大阪	49
②	桃仁会病院／京都	47
③	翠悠会診療所／奈良・和歌山	23
④	佐藤循環器内科／愛媛	18
⑤	大野記念病院／大阪	15
⑥	小野内科／大阪	14
⑥	大町土屋クリニック／広島	14
⑧	湘南鎌倉総合病院／神奈川	12
⑨	札幌北クリニック／北海道	10
⑨	小尾クリニック／大阪	10

症例報告書回収状況報告

登録	観察開始時	3ヵ月後	6ヵ月後
297	132	102	75

J-DAVID事務局からお知らせ



症例報告書送付のお願い

観察開始時の症例報告用紙は、観察開始後速やかにご記入のうえ、エクスパック500にて事務局までご返送下さい。
その後の試験スケジュールをご案内させていただきます。ご協力の程宜しくお願い致します。

CRC導入について

このたび株式会社アイロムという会社と契約し、症例のスクリーニング、症例登録・割付、試験開始までの補助業務を依頼できるようになりました。一部の施設では開始しています。すでにCRCシステムが導入されている場合や、CRCなしで病院スタッフによる実施が可能な場合など、こちらからのCRC派遣が必要ない場合も想定されます。そのような場合には、CRC派遣費用分を参加施設に分担研究費としてフィードバックいたします。詳細については事務局にお問い合わせ下さい。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808

ホームページもご覧下さい。
<http://j-david.info/>